

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)



公表: 令和5年 3月 1日

事業所名 まなび ふたば

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	4	1	広いとは言えないが、学習と余暇のスペースを分ける工夫をしている。	利用者の組み合わせによっては、療育を静かに落ち着いた場所できないことがある。落ち着いて過ごせる環境設定の工夫を考える必要がある。
	2	職員の配置数は適切である	5	1	1	専門性を備えた職員が在籍している。	送迎のある時間は施設内の職員数が減る。児童の安全に配慮した支援を行う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	1	トイレに手すりを設置している。	トイレ入り口の段差を改善する必要がある。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	1		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	0	1	社労士や行政書士から助言を受けている。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	毎月、事業所内研修を行なっている。	
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	1	WISC-IV、Vineland-II、新版K式発達検査等を活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	0	平日・土日で課題内容を変えて支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	0	朝のミーティングを行なっている。	土日祝は、朝のミーティングが困難。前日に準備や打ち合わせを済ませておく必要がある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	1	終礼録を作成している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0	毎日、リトムを使用し、その日の様子を記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	0	0		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	3	0	保護者を通じて情報共有している。	受け入れ事例なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3	1	保護者を通じて情報共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	3	1		移行事例なし。卒業する利用者はいるものの、情報提供ができていない。情報をまとめ、提供する準備を行う。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	5		感染症の関係でできていない。時期を見て検討する。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	2	2	児童発達支援管理責任者が参加している。	感染症の関係で積極的にはできていない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	4	3		感染症の関係で困難だった。今後に向けて企画中。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	6		感染症の関係でできていない。春～夏頃に向け企画中。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	1		
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0	鍵付きロッカーに保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	2	5		感染症の関係でできていない。時期を見て検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1	0	ハザードマップ確認、AEDの使い方など、全職員が参加し訓練を行なっている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	研修を通し行なっている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	0	アレルギー表を作成している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0		